

第1回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事概要

■日時：

令和元年7月8日（月）10時00分～12時00分

■場所：

草津市役所4階行政委員会室

■出席委員：

中川委員、土山委員、重原委員、花澤委員、梅村委員、宮下委員、辻委員、井上委員、東川委員、堀井委員

■欠席委員：

なし

■事務局：

【行政】

長部長、中村副部長、角課長、中立課長補佐、大野課長補佐、古野課長補佐、大溝主事

■中間支援組織

【(公財)草津市コミュニティ事業団】

諸岡氏

【(社福)草津市社会福祉協議会】

村山氏

■協働コーディネーター

阿部氏、仲野氏

■傍聴者：

0名

1. 開会

【事務局】

本日は、令和元年度第1回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会に御出席いただきましてありがとうございます。開会にあたりまして、草津市まちづくり協働部長の長より一言御挨拶申し上げます。

【長部長】

皆様、おはようございます。委員の皆様には何かと御多用の中、本日の委員会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。

また、去る6月29日に開催いたしました地域円卓会議におきましては、御協力いただ

きまして誠にありがとうございました。最終的には30人を超える一般の方の参加と、センターメンバー等々を含めまして、50人を超える規模の会議となりまして、大変多くのお声をいただくことができました。

さて、今年度の委員会ですけれども、例年同様市民参加の推進及び達成状況を評価いただきますと共に、第2次草津市協働のまちづくり推進計画の策定について議論をお願いしたいと考えております。現行計画に基づき、協働のまちづくりを推進する中で見えてきた課題等を踏まえ、また、地域円卓会議での御意見等も参考にしながら、更なる協働のまちづくりの推進を目指し、次期計画を策定して参りたいと考えておりますので、どうぞ、お力添えを賜りますよう、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、本日の会議につきましては、市民参加の進捗及び達成状況、協働のまちづくり推進計画についての30年度の実績及び今年度の計画予定等ならびに、総括の報告をさせていただきます。第2次の計画に向けて、行政より本委員会に対しまして諮問をさせていただきます、計画策定について皆様に議論いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

2. 報告事項

(1) 市民参加の進捗および達成状況

【事務局】

<資料に基づき説明>

【委員長】

意見等はございませんでしょうか。

【I 委員】

C 評価や D 評価はよくないという評価をされているのでしょうか。そうであれば、何か対策はされているのかお聞きしたい。

【事務局】

各審議会等の委員改選時に、団体に依頼する際に、できるだけ女性の方の推薦をお願いしたいという旨の文章を依頼文に追加するようお願いしているが、団体から推薦いただいた方に男性が多いため、比率が達成できない状況です。今後は、くさつ☆パールプロジェクトと男女共同参画課と連携しながら比率の改善に向け取り組んでいきます。

【委員長】

C評価とD評価については、今後どうする方向なのか、次回において担当の部局から報告を求める。具体的にそれを改善する方策をどう考えるのか報告書でいただきたい。D評価は直に担当部局に出て来ていただきたい。なぜこうなのかという説明と、今後どうするかという方策の説明をするようにお願いしたい。

【B委員】

充て職に女性がいないということであるが、探したらいらっしゃるのではないかと考える。

【A委員】

女性の推薦を頼めそうながりの先に女性の方がいないというのも大変だと感じる。ちなみに、女性が全体の3割を占めていると会議の雰囲気が変わるように感じる。当面3割を目指すということでもよいのではないか。

【委員長】

当面は男女比率3割以上といってもいいかもしれません。推薦してもらっても、対象となる人がいないのでという壁は見えるが、そのような団体であること自体に問題があると考ええる。

【事務局】

団体の見直しをするようお願していますが、今後、男女共同参画課も通して、比率の改善に向けて対策を講じていきます。

【委員長】

対象団体の構成を変えることは、効果的である。

【C委員】

ただ、各団体の役員の男女それぞれの人数を把握していないままに、女性を推薦いただくように団体を見直すことは難しいのではないか。まずはそこから把握していくべき。

【B委員】

部署によって温度差があるため、庁内で再度意識していくことが大切である。

(2) 草津市協働のまちづくり推進計画について

【委員長】

次に報告事項2について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

<資料に基づき説明>

【委員長】

意見等はございませんでしょうか。

課題共有型地域円卓会議に参加して、今後に向けた考え方とか、御意見あるかどうかと思いますので、御意見いただけましたらと思います。

【C委員】

志津南の場合は、まちづくり協議会が頭にあって、その下に、町内会、社協、民生、PTA等があり、地域のことを皆さんに共有しながら、事業を展開している。

他のところでは、自治連合会とまちづくり協議会があり、同じ学区のまちづくりの情報が、一カ所ではなく、二カ所から発信されてしまう。住民も混乱するので、市できちっと整理をしていただきたい。

【委員長】

まちづくり協議会の役員体制や、役員の発掘について、計画の中でもう少し指針として出していく必要がある。

【E委員】

他市の方と話している中で、都市型と農村型でコミュニティ形成に差があるように感じた。草津市のことをもっと聞きたかったという意見もあったので、またこのような機会があればいいと感じた。

また、女性の参画については、審議会委員に女性が少ないということも、生活の中の余裕の無さや、様々な生きづらさが原因であると感じている。女性が市政参画するにあたって、トレーニングの場が必要である。手を挙げられない方に対して、人材育成できればよい。中間支援組織の草津市コミュニティ事業団と草津市社会福祉協議会の人材育成事業について具体的に聞きたい。

【委員長】

人材育成の生涯学習の入り口も含めて、一旦棚卸する必要がある。草津も棚卸をして、その人たちが実際どのように次のステップに上がっているか。趣味、教養の段階で、それ

以上は結構ですという方が何割くらいいるのか。であるなら、どうしたら次のステップへ上がってもらえるのか。そこらも、草津市コミュニティ事業団と草津市社会福祉協議会と相談しながら実施するべき。行政より、そこと相談した方が早い。役所の方は、計画段階の生涯学習のプログラムを出していただきたい。

【G委員】

大学で、学生が河川の清掃活動に協力したり、夏祭りに協力したりするが、学区の動きと町内会の動き、団体の動きと、重層的に動いているが、それぞれのイベントに学生がどういう立場に入っているのか非常に見えにくいところがあり、実施主体が違うが、学生から見れば同じ活動に見える。若い人や新しい人からすると、長く住んでいる方は使い分けするため、入りにくいことがあるのではないかと感じる。ボランティアで入りたいという学生にとってわかりにくい部分もあり、ハードルにもなっている。誰にどうなってほしいということも考えながら、政策を進めていく必要があるんだなと感じた。

【I委員】

東近江三方よし基金は素晴らしいシステムだと感じた。パネラーと参加者を含めた話し合いがあったら良かったと感じた。

【委員長】

参加者同士3人ではなく、パネラーと参加者で組んだ方が良かった。

【A委員】

パネラーの方には、「3人1組の議論にお入りください。」と言っていたが、それぞれ名刺交換等されていた。

【B委員】

少し時間が長引いたと感じた。パネラーの方と周りの人とのやり取りがもう少しあれば参画したという気持ちで帰れたかなと感じた。

女性の市政参画については、女性が入りやすい形態や役を受けた際の役割分担の仕方等を工夫していったら女性も入りやすいのではないかと考える。

【D委員】

まちづくり協議会については、C委員の意見のように、まちづくり協議会の中で、一括できたらいいと感じる。

【F委員】

円卓会議では、他市での取組等、大変勉強になることがたくさんあった。

まちづくり協議会として、情報発信して活動はされているが、まだまだ一般の町民の方には浸透しきれていない部分がある。私自身、できるだけ参画する一人として参加していきたい。

【H委員】

私は残念ながら、子どもの世話のため参加できなかった。審議会等に女性委員の比率が低いのは、やはり、女性が忙しいのではないのかと感じる。家事育児をしている世代にとって、家庭のことから更に市政参画というと家事が回らないということもあるのではないのかと感じる。

【委員長】

子育てとか、育児、家事労働等に関して、助ける仕組みを地域で作る必要がある。まちづくり協議会が持っている可能性をここで開いてほしい。

忙しい人たちを助ける仕組みを急いで開発しないと、という危機意識を持って、次期計画を考えるべき。

【A委員】

パネラーと参加者の絡み、意見交換の機会については、もう少し何か考えたほうがいいと感じた。例えば、話し合った内容にトピックスを足して、参加者に向かって話していただくとか、そこで、質疑応答を中間段階で実施するなど。

女性の市政参画については、家事支援制度のようなものを設ける等の工夫が必要ではないか。草津市協働のまちづくり推進計画の中で、関わる人をどう増やすかというところで、市民間の繋がりや広げ方に注目されたが、計画にどのように反映するかが重要であると感じた。

【委員長】

計画策定にあたり、参画協働という大前提、草津市の団体自治・住民自治、双方を繋ぐ協働のとらえ方を行政内部で浸透させていくことが必要であると感じる。団体自治である行政の各分野別施策毎に、住民自治で担うべき分野があるということをはっきり示すべき。

例えば、防犯は、住民の防犯機能、防犯能力が弱ってきたら、警察にもものすごく負担がかかる。そのため、地域防災、団体自治防災もある。

住民自治における防災、防犯、福祉、障害者福祉、高齢者福祉、母子福祉、児童福祉という機能もあるわけで、そういうものの見取り図を行政が整理して、各部局毎にどういう住民自治を育てたいのか、どう思っているのか問い合わせてもらいたい。それを、地域

まちづくり協議会がどのように担えるのか、あるいは、担ってもらいたいのか、まちづくり協議会で担うことが困難であれば、NPOで担ってもらおう。行政側が担ってもらいたいメニューを示すべき。

【阿部氏】

市民まちづくり提案制度の代わりにするものがないと困るため、次期計画の中では、具体的なところを提案していただきたい。

ただ、NPOについて、市民側が課題に気付いて、対策を講じるということを行政が業務提供としてやっていかないと、課題が出てきて初めて慌てるということにもなる。そういうことを含めると、勉強してもらう機会をもっと作っていかないといけない。

【委員長】

前回円卓会議で出したことも含めて、次期計画は現行計画の焼き直しではいけないと考える。

今後は、地域経営者も経営能力を持ち、行政が民間に委託する他に、地域に委託していくことが参画協働であり、その部分を次期計画に盛り込んでいきたい。

では、次期計画策定に際し、事務局から諮問がございます。よろしくお願いします。

3. 諮問

行政から委員長に諮問

4. 審議事項

(1) 第2次草津市協働のまちづくり推進計画の策定に向けて

【事務局】

<資料に基づき説明>

【委員長】

体系図では、それぞれの主体の役割を明確化してあります。

NPO系のアソシエーションとコミュニティ系の支援団体は違う組織だということの認識を徹底する。教育機関にも役割を果たしてもらいたい。中間支援組織については、支援の在り方が非常に期待されている。市においても当然支援をしないといけないため、中間支援組織の支援と市の支援と役割が違うということを示す。いずれも、人材育成については、重層的にやるべきということで、中間支援組織にも市にも人材育成を展開するという体系になっている。補強すべき事業や、着眼すべき視点については本文を作成するときに、文章としてきちっと書いていくことになるが、現時点で御意見ございますか。

【A委員】

委員同士でフリーディスカッションをするような場面があれば良い。意見交換ができる場面が正式な議論の場以外であれば良い。「ここには問題意識あるよね」と形にできるような意見交換ができる場面があれば良いと感じる。

【委員長】

事務局はいつ頃が可能ですか。

【事務局】

委員会主催の成案途中のパブリックコメントを実施した後、第3回目の委員会開催の前にいかがでしょうか。

【委員長】

第2回はたたき台と理解して良いか。

【事務局】

その通りです。たたき台を受けて、委員会主催のパブコメを実施し、更に要素を増やした中で、確認の勉強会を実施し、答申を迎えるという流れでいかがでしょうか。

【委員長】

第2回をいつごろ予定しているか。

【事務局】

9月17日（火）でお願いしたいです。

【委員長】

ということであれば、10月、11月頃でどうか。

【A委員】

その時期であれば、反映し辛い。第3回では、公開型パブコメの内容をどう反映するかが主な議論になるので、パブコメをする前に意見交換をした方が、公開型パブコメをどう受け止めるかということに活かせるのではないか。公開型パブコメとは別に、パブコメ期間があるのか。

【事務局】

市が実施するパブコメがあります。

【委員長】

では、パブコメと言わないほうが良いか。

【A委員】

タイミングにもよるが、答申に近くなると自由な議論、反映できる議論が出来にくくなるので、委員会主催の意見を集める機会の前が良い。

【委員長】

10月18日の晩はどうか。出られない方は、前もって意見をもらってヒアリングを実行する方法を取るべきである。

－日程調整－

【委員長】

では、10月18日19時から実施する。

都合がつかない方は、事務局と調整してください。

以上を持ちまして、本日の審議事項を終了します。事務局に進行をお返しします。

【事務局】

公開型パブコメの名称についていかがいたしましょうか。

【A委員】

大津ではライブパブコメとした。自治体基本条例を作った時には市民フォーラムという名前で、市民が市民に語りますというワールドカフェ形式で実施した。今回であれば、コミュニティや様々な活動や色んなところと連携みたいな、分かれて、それぞれの分野について説明して、30分くらいで関心のある所に行って意見交換して、出てきた意見についてはパブコメに準ずるものとして持ち帰って、答申、必ず回答するという方法で実施したことがある。

【委員長】

まちづくり計画を考えるLIVE市民フォーラムとか。

【事務局】

みなさんに分かりやすいネーミングが良いので、そうさせていただきます。

【委員長】

説明員は主として審議会委員が務める。、それに向けて勉強していきましょう。

以上を持ちまして、本日の審議事項を終了します。事務局に進行をお返しします。

【事務局】

9月17日に第2回の委員会を開催させていただき、勉強会を実施いただいた後、L I V E市民フォーラムに移りたいと思っております。

それでは、これを持ちまして、第1回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を閉会させていただきます。

5. 閉会
